令和4年度 第1回あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議 摘録

- 1. 日時: 令和4年6月3日(金)13時15分~14時50分
- 2. 開催場所:麻生区役所 第1会議室
- 3. 出席者
 - (1) 委員

吉松委員長、村井委員、岡倉委員、伴委員、鈴木委員、岡部委員、森委員、吉垣委員、小山委員、河村委員、佐野委員、依田委員、高橋委員

欠席 增田委員

(2) 事務局

滝口事務局長、大塚地域みまもり支援センター副所長、島田地域支援課係長、野口児童家庭課長、宮川 高齢・障害課長、後藤保護課長、高橋保育所等・地域連携担当課長、佐藤危機管理担当課長、塚本企画 課長、齊藤生涯学習支援課長、藤原地域ケア推進課長、船山地域ケア推進課係長、長瀬地域ケア推進課 主任、上原地域ケア推進課職員

4. 次第

1 開会

事務局長挨拶、事務局説明、委員・事務局自己紹介

- 2 議事
- (1) 第6期麻生区地域福祉計画の進捗状況及び令和3年度評価について
- (2) 地域包括ケアシステム構築に向けた取組について
 - ① あさお希望のシナリオプロジェクトの進捗状況について
 - ② 認知症にやさしいまちの取組について
- (3) その他
 - ・今年度の会議スケジュールについて
- 3 閉会

【配布資料】

委員名簿

座席表

あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議開催運営等要綱

資料1 第6期麻牛区地域福祉計画進捗状況

資料2 第6期各区地域福祉計画における評価に係る考え方について

資料3 第6期麻生区地域福祉計画·令和3年度評価

資料4 あさお希望のシナリオプロジェクトについて

資料 5 麻生区認知症の取組

追加 議事1スライド資料

- 5. 公開・非公開の別 公開
- 6. 傍聴者 2名
- 7. 議事摘録
 - 1 開会
 - 2 議事
 - (1) 第6期麻生区地域福祉計画の進捗状況及び令和3年度評価について 資料を基に事務局より説明後、各委員から意見聴取
 - 森委員 ・コロナ禍のなかで色々な事業を推進されてきたことが見えるので、目標をほぼ達成したと評価したい。
 - ・「ひとり暮らし等高齢者見守り事業」について、3年に一回の全数調査として実施されているが、今年もコロナ禍のため民生委員が入らずに郵送調査となっている。調査後、同意欄に署名がある場合は民生委員に調査票がフィードバックされるが、割合はどのくらいか知りたい。対面調査の時と比べてかなり少ないようなので、4年度は対面で調査実施したいという思いがある。

事務局・割合については準備がないため、確認してお答えすることとしたい。

委員長 ・会議後、事務局から森委員あてに連絡するということでよいか

各委員 (了承)

事務局・それでは会議後、確認して別途連絡する。

※高齢者生活状況調査において、総数 6,744 件に対して回答 6,188 件 (91.8%)。回答のうち、同意欄に署名があった件数は 4,850 件 (78.4%)。

岡部委員 ・コロナ禍の中で工夫して取り組まれたと思うが、達成度について全て「ほぼ達成した」という評価でいいのかどうか。コロナにより催し物が中止になるなど課題もあったと思うので、達成しながらも、どのような課題を残したのかという記載もあれば、 今後の取組の参考になるかと思う。

鈴木委員 ・「あさおオレンジプロジェクト」の会議に昨年度出席したが、会議に認知症になった方が2名ほど出席しており、「認知症になって悔しい」という話を自らされていた。以前はよく、街なかで「この人は認知症かな」という印象を受ける人がいたが、コロナ禍で皆がマスクをしていてよくわからないので(判別が)難しい。誰でも認知症になった時に、一般の人が優しく対応してあげられると良いという思いがあるが、実際どのくらい対応できるかなとも感じている。民生委員もしているので、気付いた時は声をかけて対応したいが、最近はそうした状況に遭遇しないので、お話ができない。・高齢者調査について400件ちょっと担当しているが、完全に一人暮らしの方が2名いて、訪問するととても喜んでくれる。コロナ禍のため家に閉じこもっているので、嫌がられるかなと思いきや訪問を喜んでくれたが、訪問が長くならないように活動した。

- (半委員・令和3年度達成度の評価は「ほぼ達成」ということだが、コロナ禍の中、参加者を募って色々な催し物を行い、大変だっただろうなということは感じ取れた。
 - ・「ひとり暮らし等高齢者見守り事業」について、全数調査を実施したということだが、私が見守りをしている人を訪問したところ、この調査書が置かれてあり、実際には問題を抱えているにも関わらず、「問題ない」と回答されていた。本人に任せると、問題があるにも関わらず、そうした回答になることもあるだろう。その人はすでに地域の方や新聞屋さんにも連絡をとって、チームのような形で見守りを行っているが、調査書を送って、役所と個人はつながるけれど、チームが成り立たないとどうにもならないのではないかという印象も受けた。調査だけでなく、地域のチームづくりまで発展すると、良いのではないかと感じた。
- 事務局 ・個別のケースでは色んな状況があると思っている。個の方に対してはそれぞれで 対応という形になるが、麻生区としては「麻生区高齢者見守りネットワーク事業」と いう形でも、地域の方と連携していくという取組もしており、紹介させていただく。
- 委員長 ・自分で「問題がある」と認識している方は認知症ではないだろうから、たしかにそ のあたりは課題かもしれない。
- 岡倉委員 ・見守りについて、行政の目が行き届いてない部分があると思うのでこれからもしっかり見てほしい。
 - ・評価について、川崎市地域福祉計画にはPDCAサイクルを行うと書いてあるが、 あさお福祉計画には記載がない。次期計画には明記するようお願いしたい。評価の目 的について「必要な対策を講じることを目的に」と記載があるので、対策を我々に示 して、どうですかという意見の聞き方をしてほしい。
 - ・先日、「保健福祉の相談窓口の一覧」が自宅に届いた。非常に良い企画だと思うが、自分が所属する17人程のグループのメンバーに聞いても1人しか知らなかった。なぜかといえば、内容が誰に向けたものかはっきりしないからだと思う。一般の人にとっては、断片的に書いてあってわからない。市政だよりもそうで、「詳細はQRコードで調べてください」、「HPで探してください」という姿勢。全戸に配布するのではなく、民生委員や町内会の人に渡すなどの工夫が必要だろう。
 - ・近所に一人暮らしの人がいるが、近隣の人が認知症に気づいて、地域包括支援センターに連絡して、デイサービスなどを受けられるようになった。地域包括支援センターは、「この人は今後どのようになるのか」、「そういうことになったときにどうすればよいのか」ということを近隣の人に話をしておいてほしい。そのような伴走が必要だと思う。

事務局・広報について、必要な方により届きやすくなるように工夫していく。

- 岡倉委員 ・「保健福祉に関する情報発信の充実」については、昨年に、委員で議論をしようと いう話があったができていないので、機会をつくってもらいたい。
- 吉垣委員 ・コロナ禍の中で、行政も考えながら前向きに取り組まれたことが、説明を受けてわかった。なんでも中止にするのではなく、オンラインを活用して会議などを実施されたのは良いことではあるが、対面式会議が一番良いとも思う。会議後に行政や出席者

と少し話をすることが、つながりづくりにおいても大切だと思う。

・重点項目について、「ほぼ達成」というよりは、目標を上回って達成した取組もあ るように思う。そういう取組は謙虚にならず、記載しても良いのではないか。

小山委員 ・「地域活動に関わる人材の発掘と育成」ということで、多くの講座や勉強会など数々 実施されて、参加された人数もある程度いるなと感じた。私たちが関わっている地域 活動は高齢者に関するものしかないが、ボランティアの方の高齢化や担い手不足は 変わっておらず、色んな講座があるが、どうすれば実際の地域活動において(現状 を)変えていけるのかなということを考えながら資料を見ていた。

・「保健福祉の相談窓口一覧」冊子が昨年度末に全戸配布され、カラー刷りで良いな 河村委員 と思ったが、あさお基幹相談支援センターや(区役所高齢・障害課)障害者支援係が 掲載されてなくてがっかりした。良い取組であるので、そういうことが無いようにし てもらいたい。

事務局 ・今後改訂する機会があったときには、掲載するようにしていきたい。

佐野委員 ・説明を聞いて、「ほぼ達成」と評価したいと思う。個人的な意見として、認知症に やさしいまちづくりの推進や要支援者のサポートなど、高齢者に特化しているかな という印象がある。本当に支援を必要とする人全てに対して、支援ができるような仕 組みが最終的にできてくれたらありがたいと思う。災害対策基本法や障害者差別解 消法も改正されて、課題なども出ていると思うので、地域で課題を抱える方全てにと っての仕組みづくりという視点で実施いただけると良いと思う。

> 「保健福祉の相談窓口一覧」は素晴らしい冊子だが、自宅へのポスティングがなか った。周りにも聞いたところ、たまたまかもしれないが届いてない人もいるようだ。 簡潔明瞭であり保管できて、地域の人に対して「こういうところに相談したら良い」 と橋渡しもでき、大変評価している。改訂版なり、地域の人全員に届く工夫をしても らえたらと思う。

- 依田委員 ・それぞれの取組状況は昨年に比べてアップしている取組が多く、やりかたも工夫 されて進んでいると感じたが、岡倉さんも言及されたようにPDCAサイクルが大 事であると思う。地域福祉計画が実践されるものとして、かつ把握できるものとして 進んでいかなければいけないが、細かく具体的すぎるところがある。一個一個の事業 の確認は良いが、一体この事業を達成することで何が進んでいるのか、もう少し市民 にも説明がつく言葉に変えていく作業が足りないと感じる。
 - ・「保健福祉の相談窓口一覧」については、簡潔で良い冊子だと思った。一方で、中 身を読んでいくと、この窓口は誰を対象としたものなのかわからない。資料の書き方 について、改革が必要ではないかと思う。発信者目線ではなく、受け手目線でないと いけない。HPなどを見ても、他の自治体では優れた書き方をしているところもある が、川崎市は断片的に見える。情報発信について、適切に届けるにはどうすればよい か、グループワークの機会を設けてもらえるとよい。
 - ・認知症介護教室は、保健師さんが実施している活動か。

・保健師と、認知症家族会「はなみずきの会」の協力のもと、座談会と、医師・看護

4

事務局

師による講義を隔月に実施している。

- 依田委員 ・行政が実施する意味として、どういう位置づけなのかが大事だと思う。介護事業所の利用者は多いので、そこで介護教室をちゃんと行うようにすれば、広げられる。介護者の支援は大事であり広げるべきだが、計画において把握するのであれば、どのような目的で行っているのか整理すべき。私も地域包括支援センターの運営をしているが、支援に限りがあって、自分たちだけでは解決できない。面で押さえるためには、他の人にやってもらう必要もあるので、そこが気になった。
 - ・あさおSOSネットワーク事業は、区内発生件数2件ということで、機能していないのだろうか。20年位あるようだが、広がっていないのではないか。
- ・件数としては少ない方が良いともいえる。何か生じた時のために登録いただき、行 方不明時にすぐに対応できるようにする意味で、非常に重要である。近隣自治体との 連携も広がっており、件数で見ると少ないが、この事業により安心されている方もい ると理解している。
- 依田委員 ・ケアマネジャーが認知症の方をケアするときに、最初から登録へ結びつけておけば初回をサポートできるが、そのような仕組みになっておらず、ケアマネジャーに制度を周知することにもなっていない。やるならやるで、実態を把握したほうが良いだろう。
- 岡倉委員 ・幸区の地域包括支援センターではバンドにQRコードをつけて、自分がどこにいるかわからなくなったらスマホで調べればわかるような仕組みがあると聞いたが。
- 依田委員 ・自治体によって取り組み方が異なる。同じ名前でも、(行方不明者の)探索まで行うところもあれば、情報提供までというところもある。麻生区は探索までは仕組みができていない。中途半端なところがあるように思うので、検討いただければ。
- 事務局 ・事業の更なる周知について進めていく。 【補足】令和2年10月から、全市でQRコードを利用した「SOSネームプリント」 の配布を実施している。
- 高橋委員 ・「目標をほぼ達成」という評価については、コロナ禍でさまざまな工夫をして取り組んだ中での達成だったかと思う。社協と関連する取組で言うと、人材の発掘・育成についてはオンラインを活用して色々な研修なども実施し、なんとか2年間事業を繋いできたことを実感している。オンライン活用の一方で、高齢者や障害がある人を含めて、(オンラインに)慣れていない人もおり、コロナ禍での取組に参加できなかった人がいることも感じている。コロナにより見通しが立たないなかでも、地域のボランティアの皆さんは活動再開に向けて努力されてきたが、2年の間に状況が変わり、担い手がいなくなった団体や、活動のノウハウを繋いでいくということが厳しく活動休止や解散することとなった活動もある。これまで地域の課題だったことに加えて、コロナにより新たに課題になったことについても、行政や地域の皆さんとどのように取り組んでいくかを話し合う機会を持てれば良いなと感じている。
- 村井委員 ・「地域活動の参加につながる取組の推進」における学生ボランティア活動の促進に

ついて、昨年度は新型コロナの影響で本学(田園調布学園大学)として外部での活動を承認できず、学生をコーディネートできなかった。今年度は外部活動が可能なように学内の動きも進んでおり、認知症カフェや地域活動に積極的に学生をコーディネートできるように動いている。また、昨年度は王禅寺町内会の方に授業の中で自治会活動について丁寧に話していただいた。学生からも、「地域活動のサポートをしたい」、「今まで自治会について知らなかったが、若い時から関わることが大切だと思った」など、たくさんの反響があり、それぞれの地域に芽が出たように思う。虹ヶ丘の餅つき大会に学生が参加するという機会もあり、これからも色々な形で本学が地域活動の担う人材としても活動できればと思っている。

- ・「保健福祉に関する情報発信の充実」に関して、情報発信は「公聴あっての広報」という考え方が基本。PDCAサイクルに似ているが、地域住民がどんな情報を必要としているのかリサーチしたうえで、情報を伝え、効果を測定する。効果測定とは、ある意味「聞く」という行為なので、それにより新たに情報発信していくという、公聴と広報がセットであることが大原則になる。そうした中で、せっかく情報発信をするのであれば、効果測定を狙う必要があり、広報戦略をきちんと持つ必要がある。単純に知識を増やすための広報が基本としてあり、共感や賛同を得るための広報が次の段階。共感と賛同の次は、行動につなげていくための、参加を促す広報。最後は、協働。一緒に取り組む、仲間になってくれるということが、究極の形になる。この4段階のどの段階をねらって、どうやって情報発信していくのか考える必要がある。質問をもらうということは大切。また、QRコードによるアクセス数は広報の反響数と言えるので、紙媒体において記事ごとにリンク先が異なるQRコードを掲載してアクセス数をカウントすれば、どのコンテンツにどう反響があったのかある程度わかる。
- ・また、「保健福祉の相談窓口一覧」について、配布はゴールではなくてスタート。 配布後に、市政だより麻生区版などで、使い方講座や利用者の声などを掲載し、活用 方法をフォローアップしないと配りっぱなしになる。冊子を使いこなせる人材が、区 内に育っていくことが本当の狙い。事業の戦略としては、配るだけでなく、使いこな せる人をどれだけ養成するかを狙う必要がある。
- ・「あさお SOS ネットワーク事業」については、たしかに件数は少ない方が良いと思うが、見守りとセットになっている部分がある。行方不明者を探すことの前に、見守りという予防的な仕組みをつくるという取組でもある。あらかじめ協力店・協力関係者をたくさんつくっておくことで、万が一行方不明が生じた時には、協力者によって当該者を連れ戻してもらえる。行方不明者を見つけた時に、どこに連絡すればいいかを周知することが大事。先ほどQRコードの話が出たが、それをチェックすれば連絡先がすぐわかるような仕組みがあると良い。行方不明になる前に、徘徊している人をいかに発見できるかということも併せて考えていく必要があり、区民に対して「こんな人がいたら勇気をもって声をかけてください」といった、認知症サポーターのフォローアップシステムみたいなものを定着させて、声をかける、おかしいと感じたら連絡をする、というモデルだけでも確立することが大事かと思う。
- ・地域を調査するなかで、孤立孤独状態かどうかという調査も、本格的にこれから必

要になってくるかと思う。国の方で、孤立と孤独の問題について検討する動きがあ る。「UCLA孤独感尺度」という、世界的な標準尺度として、正式には20問だが、 日本でブラッシュアップして、たった3問訊くだけで孤独かどうかわかる設問があ る。全戸アンケートを行う時にこの尺度を組み込むと、孤独な状態にいる人がどれく らいいるのか、比較的洗い出すことができることから、定点観測には効果的かと思 う。孤立と孤独も意味が異なり、孤立というのは物理的な状態のことを指すが、孤独 というのは心情的、感覚的なことを指すので、同じ尺度で検討するのは間違ってい る。しかも、本人があえて孤立・孤独な状態でいる人もおり、駄目なもののように単 純に位置付けられるものではないため、そうしたことも気をつけなければいけない。 ・「地域における見守り事業の充実」について。虹ヶ丘1丁目では、引き続き住民中 心で見守り活動を行っている。毎月第1日曜に定例会を行い、見守り情報の共有を継 続しているので、住民活動等も連携対象となったらいいなと思う。事業者による見守 りによって、たまたま見つかった、見守れた、ということはあるかもしれないが、向 こう3軒両隣による気づきが非常に大事。地域住民による見守りを行う上で問題と して2点あるのが、個人情報の関係で活動がストップしてしまうことと、異変があっ た時に誰に報告すればいいのか周知されてなくて、躊躇して抱え込んでしまうこと。 そのためには、情報アンカーを明確にすることと、「何が異変なのか」という気づき の標準モデルを周知することで気づいてもらえるようになる。また、サービスが入る と安心して見守りをやめてしまうパターンが多いが、サービスが常に見守っている わけではなく、合間に危険が待っているので、そこをサポートしていく体制も必要。 サービスを過信するのもよくないかと思う。

・全体を通して、令和2年と3年の取組を比較すると、反省を生かして努力されたことが見て取れる。「(目標を)ほぼ達成」というのは微妙な表現だが、行政の立場としては十分にやった場合にこうした表現になるようだ。コロナ禍での対策は頑張られたかと思うので、これからも応援していきたいと思う。

(2) 地域包括ケアシステム構築に向けた取組について

- ① あさお希望のシナリオプロジェクトの進捗状況について
- ② 認知症にやさしいまちの取組について

資料を基に、事務局より説明後、意見聴取

岡倉委員 ・希望のシナリオについて、地域福祉計画のなかで、「まちのひろば」の創出について書かれているが、具体的な話が見えてこない。積極的な取組をお願いしたい。

鈴木委員 ・本日の議題ではないが、ヤングケアラーについて報道されている。麻生区役所は把握しているのか、次回に状況を聞きたい。

依田委員・希望のシナリオについて、区地域福祉計画の中での位置づけはどうなっているか。

事務局 ・基本目標1基本施策2の3「地域資源を活用した地域づくりの推進」に位置付けられている。

依田委員 ・承知した。

(3) その他

今年度の会議スケジュールについて説明

3 閉会

14 時 50 分閉会